



幸田プレステージレクチャーズ 講演録発刊に寄せて

国立大学法人豊橋技術科学大学名誉教授
東海国立大学機構名古屋大学特任教授
原 邦彦

2013年（平成25年）3月19日、記念すべき第1回幸田プレステージレクチャーズが開催されました。以来、本年までに合計20回、ノーベル賞受賞者、文化勲章受章者、欧州発明家賞受賞者、フランス国家功労勲章（シュバリエ）受章者、日本国際賞受賞者など、国際的に特筆される業績をあげられ、時代の先端を行く科学者、技術者、そしてグローバル企業のトップ経営者による講演会が幸田プレステージレクチャーズとして継続して開催されてきました。これもひとえに大須賀一誠前町長様ならびに成瀬敦町長様のリーダーシップ、幸田町議会のご理解、加えて幸田町職員の皆様の絶大なご尽力の賜物であり、改めて関係の皆様に敬意と謝意を表する次第です。

私は、幸田プレステージレクチャーズの企画に始まり、講師の先生の推薦ほか、ご講演の交渉、当日のアテンドなどについてずっとお手伝いをさせていただいてきました。この間、常に心掛けてきましたことが三つあります。

一つ目は、科学や技術の世界、また企業経営の世界で、世界トップレベルのご業績を上げられ、世界をリードされておられ、普段お目にかかることが大変むづかしい方々を幸田町にお招きし、直にお話を聴かせていただく機会を作ること、

二つ目は、プレステージレクチャーズに聴講参加されたすべての皆さまに、今までに経験されたことのない驚きと感動を感じていただき、ご自身の将来と地域の未来をデザインする際の貴重なヒントを得ていただくこと、

三つ目は、この稀有な講演会を幸田町が主催できることを継続して示すことによって、国や近隣の自治体あるいは企業に対して、「幸田町は農業、製造業、それに学術・文化のどこから見ても活力ある並外れた実力を持った自治体であって、ぜひ訪れてみたい、交流したい、事業進出したい」と思っていただけなきっかけを作ること、この三つでした。

私自身、これまでの50年にわたる企業、研究所、大学での勤務を通して国内外の多くの著名な科学者、技術者、発明家の方々あるいはグローバル企業の経営者の方々とお付き合いをさせていただいてまいりました。そういう方々に幸田プレステージレクチャーズに寄せる私の想いをご説明し、ご講演をお願いしてまいった次第です。これまでお願いしたすべての皆様から快くご講演をお引き受けいただけましたことは、私にとって大変幸せなことでした。

木製自動織機の発明で歴史に名を遺した世界の発明王豊田佐吉さんは、「障子を開けてみよ、外は広いぞ」という名言を残しています。幸田プレステージレクチャーズに聴講参加されたすべての皆様方は、講師の先生方が如何にして偉大なご業績を成し遂げられたかについて、ご本人から直にお聴きすることで、日常という「こころの障子」が開けられ、先生方の並外れた情熱を感じ取り、そしてこれまで思ってもみなかった壮大な世界があることに心をときめかされたのではないのでしょうか。回を重ねることで、当初考えました三つの目標が次第に確かなものになってきていると実感しています。加えて、幸田町の中学校、高等学校が正規の学校行事の一つに生徒たちの講演会への聴講参加を組み込んでくださるようになったことは、このプレステージレクチャーズの趣旨に照らして大変喜ばしいことだと思っています。

2020年初頭から突然に始まったCOVID-19禍によって、ものの考え方や行動様式が大きく変わらざるを得なくなり、従来と全く同じ運営形態での開催は難しくなりましたが、引き続き幸田プレステージレクチャーズの精神が引き継がれ、幸田町の財産となっていくことを切に期待するところです。

末筆ながらこれまでご多用中にもかかわらずご懇切なるご講演を賜りました講師の先生方に改めて深甚なる謝意を表します。